

項目	内容
名称	パイナップル [英]Pineapple [学名]Ananas comosus (L.) Merr.、Ananas comosus (L.) Voss.、Bromelia ananas L.、Bromelia comosus L.、Ananas sativus Schult. f.
概要	パイナップルは、中米からブラジル北部原産で、世界の熱帯から温帯地域に広く栽培されている多年生草本である。一般に果実が食用とされるほか、健康食品としては、果実抽出物が使用される。果実や根茎に含まれるタンパク質分解酵素のブロメラインは、日本では医薬品として使用される成分本質に該当するため、ブロメラインを原材料として食品に使用することはできない。
法規・制度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 食薬区分 <ul style="list-style-type: none"> ・ブロメライン：「専ら医薬品として使用される成分本質（原材料）」に該当する。 ・パイナップル（パイナップル加工品）果実：「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質（原材料）」に該当する。 ■ 食品添加物 <ul style="list-style-type: none"> ・既存添加物 <ul style="list-style-type: none"> ブロメライン：酵素 ・一般飲食物添加物 <ul style="list-style-type: none"> パイナップル果汁（パイナップルジュース）：着色料 ・天然香料基原物質リスト <ul style="list-style-type: none"> パイナップルが収載されている。

成分の特性・品質	
主な成分・性質	<ul style="list-style-type: none"> ・フラボン (アナナフラボンA~D)、フェニルプロパノイド (フェルロイルスペルミチン、ジフェルロイリスペルミン、フェルロイルグリセロール、S-シナピルグルタチオン)、アントシアニン (シアニジン3,3'5-O-トリ-β-D-グルコピラノチド) などを含む (101)。 ・グリコシドセラミドを含む (2016310992) (PMID:31466334)。
分析法	<ul style="list-style-type: none"> ・パイナップル中のビタミン類をHPLCにより分析した報告がある (PMID:33102856)。
有効性	
循環器・呼吸器	調べた文献の中に見当たらない。
消化系・肝臓	調べた文献の中に見当たらない。
糖尿病・内分泌	調べた文献の中に見当たらない。
生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。
脳・神経・感覚器	調べた文献の中に見当たらない。
免疫・がん・炎症	調べた文献の中に見当たらない。
骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
肥満	調べた文献の中に見当たらない。
その他	<p>RCT : 国内</p> <p>【機能性表示食品】肌のくすみおよび乾燥を感じる健康な成人61名 (試験群30名、平均45.3±8.5歳、日本) を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、就寝前にパイナップル果実エタノール抽出物30.0 mg (グルコシルセラミド1.2 mg含有) /日を12週間摂取させたところ、経表皮水分蒸散量、皮膚水分量、皮膚の色調、キメに影響は認められなかった (2016059132)。</p>

参考文献

- (22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第2版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳
(76) 日本食品大事典 医歯薬出版株式会社
(91) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS)
(101) 健康・機能性食品の基原植物事典 中央法規
(102)学名でひく食薬区分リスト 薬事日報社 佐竹元吉 監修
(2017233663) 藤沢市内科医学会雑誌. 2016;28:45-6.
(2007288831) 東北薬科大学研究誌. 2006;53:109-16.
(2016059132) 薬理と治療. 2015;43(11):1593-1600.
(2016310992) 薬理と治療. 2016;44(2):247-53.
[\(PMID:33102856\) Heliyon. 2020 Oct 16;6\(10\):e05233.](#)
[\(PMID:18256496\) Biosci Biotechnol Biochem. 2008 Feb;72\(2\):406-11.](#)